

答え合わせ・解説

問1	答え 4 鉄砲	織田信長は、種子島に伝来した鉄砲の有用性にいち早く注目しました。長篠の戦いでは、大量の鉄砲を揃えるだけでなく、足軽を組織して集団で一斉に射撃させるという、当時としては画期的な戦術を導入しました。これにより、機動力に優れた武田軍の騎馬隊を圧倒し、戦国時代の合戦のあり方を大きく変えることとなりました。
問2	答え 1 楽市・楽座	織田信長は、経済を支配していた古い仕組みを壊すためにこの政策を採用しました。「楽」という言葉には「規制が解かれて自由である」という意味が含まれています。この政策によって、それまで特定の有力者に守られていた「座」を通さなくても商売ができるようになり、全国から多くの商人や品物が集まるようになりました。これが信長の天下統一を支える経済的な背景となりました。
問3	答え 3 スペインの援助を受けて大西洋を横断し、ヨーロッパの人々にアメリカ大陸の存在が知られるきっかけを作った。	コロンブスの航海は、大西洋の先に未知の大陸（アメリカ大陸）があることをヨーロッパ社会に認識させる歴史的な転換点となりました。他の選択肢のうち、インド航路開拓はバスコ・ダ・ガマ、世界周航はマゼラン、東方見聞録はマルコ・ポーロの業績です。
問4	答え 2 肉の保存や調味料として極めて高価であった香辛料を、直接安く手に入れるため	当時、コショウなどの香辛料は、アジアから陸路を経由して運ばれる間に多くの中間搾取を受け、ヨーロッパでは同じ重さの金と交換されるほど高価でした。そのため、海路を使って産地から直接買い付けることで、莫大な利益を得ようとする動きが強まりました。
問5	答え 3 輸入：生糸・鉄砲・ガラス製品 輸出：銀	南蛮貿易では、ポルトガル人やスペイン人が東南アジアや中国の拠点を経して日本と取引を行いました。日本からは当時世界有数の産出量を誇った銀が大量に輸出され、見返りとして戦国大名たちが求めた鉄砲や火薬、さらに中国産の生糸やヨーロッパの珍しいガラス製品などがもたらされました。茶や銅銭の輸入は日宋貿易や日明貿易の特徴であり、砂糖や石油などはより後世の貿易品です。
問6	答え 3 新しく城下町にやってきた商工業者の活動を促し、地域の経済を活性化させるため。	楽市・楽座の背景には、新興勢力である戦国大名が、旧来の寺社や公家と結びついていた「座」の独占的な支配力を排除したいという意図がありました。商工業者に自由な営業を認めることで、他領からも多くの商人や職人を呼び込み、城下町の繁栄と軍事的な補給能力の向上を図りました。これは単なる慈悲ではなく、大名の領国支配を強化するための合理的な経済戦略でした。
問7	答え 3 領国内の流通を活性化させ、物資の往来や商業を盛んにするため	織田信長は、自身の領国内で人や物の動きを制限していた関所を撤廃することで、商工業を活性化させようとしていました。これは「楽市・楽座」などの政策とも深く関連しており、特権を持つ寺社や公家の経済的基盤を弱めると同時に、自領の経済力を高めて戦国大名としての勢力を拡大させる狙いがありました。
問8	答え 1 石見銀山	石見銀山は戦国時代から江戸時代にかけて大量の銀を産出し、当時日本が世界的な銀の供給源となる大きな役割を果たしました。鉱山運営だけでなく、搬出のための港や街道、町並みなどの全体像が良好に保存されていることが評価され、世界文化遺産に登録されました。生野銀山は兵庫県、足尾銅山は栃木県、別子銅山は愛媛県に位置しています。
問9	答え 2 刀狩	豊臣秀吉が1588年に発令した「刀狩令」に基づく政策を刀狩と呼びます。当時、戦国時代からの流れで自衛のために武器を持つ農民が多く存在しましたが、秀吉はこれを強制的に没収することで、農民を耕作に専念させるとともに、武士との身分差を固定化する「兵農分離」を実現しようとしていました。選択肢にある「人掃令」や「身分統制令」も秀吉の政策ですが、直接的に武器を没収した行為を指すのは刀狩です。
問10	答え 2 信仰のよりどころとしての聖書	ルターは、当時のカトリック教会が腐敗していると考え、教会の儀式や教皇の権威よりも、キリスト教の原点である聖書に書かれた言葉を信じるべきだと主張しました。これが「聖書中心主義」です。ルターは多くの人々が聖書を読めるよう、ラテン語だった聖書をドイツ語に翻訳しました。この改革によって生まれた新しい宗派は、「抗議する者」という意味からプロテスタントと呼ばれます。
問11	答え 1 一つの土地に対して一人の耕作者（農民）を確定させたことで、荘園領主などの古い権利が否定された。	太閤検地が行われる以前は、一つの土地に対して荘園領主や地頭など、複数の人物が権利を持っている複雑な状態でした。秀吉は「一地一作人の原則」によって、実際に耕作する農民一人だけを土地の持ち主として認めることで、中世から続いていた複雑な荘園制を完全に解体し、近世的な支配体制を確立しました。
問12	答え 3 兵農分離	豊臣秀吉は、農民が一揆を起こすことを防ぎ、また年貢を確実に納めさせるために刀狩を行いました。同時に太閤検地によって農民の権利と納税の義務を確定させたことで、戦う役割の武士と耕作する役割の農民という区別が明確になり、社会の安定化が図られました。
問13	答え 1 一つの土地に対して、実際に耕作している農民一人を検地帳に登録し、年貢の負担者とした。	太閤検地では「一地一作人（いっちいつさくにん）」の原則が導入されました。中世の荘園制では一つの土地に複数の権利者が重なっていましたが、検地帳に実際の耕作者を直接登録することで、農民の耕作権を認める代わりに、その農民に直接年貢を納めさせる責任を負わせました。これが後の兵農分離を加速させ、江戸時代の幕藩体制の基礎となりました。
問14	答え 2 千利休は、豊臣秀吉に仕えながら茶の湯の精神を深め、豪華な装飾を排した独自の美意識を確立した。	千利休は豊臣秀吉の側近として政治的な助言も行う一方で、茶の湯においては「わび・さび」という質素な美を追求しました。これは、秀吉が好んだ黄金の茶室のような派手な好みとは対照的なものでしたが、当時の武士や豪商の間で広く受け入れられました。雪舟は室町時代の画僧であり、世阿弥も室町時代の人物です。また、千利休のわび茶は豪華さを排する点に特徴があります。